

## 学校経営のポイント

### 各学校で実施したい“いじめ”の点検・見直し

若井 彌一

困ったことに、いじめに絡んでの児童・生徒の自殺や、自殺の予告メール・手紙が続発し、また、“いじめ”についての学校（教職員）の対応に問題があるとして、訴訟に訴える動きが見られる。

#### 「文部科学大臣からのお願い」の活用

11月17日付けで、“いじめ”による自殺をストップさせたいとして、文部科学大臣が「文部科学大臣からのお願い」と題する呼びかけを公表した。内容は、文部科学省のHPで見ることができる（[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/seitoshidou/06110713.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/06110713.htm)）。

「未来のある君たちへ」と題する子ども向けの呼びかけは、わかりやすく、また、子どもたちの心に届くと思われるなかなかの名文である。後半の「いじめられて苦しんでいる君は、けっして一人ぼっちじゃないんだよ。…きっとみんなが助けてくれる」と結ばれた部分は、“いじめ”を受けて苦しんでいる児童・生徒にとっては、救われる思いのする内容である。

また、前半の“いじめ”加害者に対する呼びかけも、「弱いたちばの友だちや同級生をいじめるのは、はずかしいこと」「仲間といっしょに友だちをいじめるのは、ひきょうなこと」と整理して書き分け、「君たちもいじめられるたちばになることもあるんだよ」と訴えるなど、よく考えられた文章になっている。各学校でも活用したい。

すでに新聞報道で多くの人々が知っているように、平成11年から7年間、“いじめ”による自殺者が、文部科学省調査ではゼロとなっていたものの、毎日新聞社の調査によれば、16人もの子どもたちが自殺

していたことになるという。

事態を重視した文部科学省は、「いじめ調査」の再調査の方針を固めたようである。ぜひとも、信頼度の高い調査となるように工夫をし、学校（教職員）側の協力を得られるように努めてもらいたい。

ところで、各学校では、“いじめ”調査に対応するためにだけでなく、“いじめ”がらみの訴訟に備える意味からも、自校における“いじめ”の事実を点検し、指導や対応のあり方について、見直しを行っておく必要がある。

#### “いじめ”の点検と対応の見直しを

昨年10月に、埼玉県北本市の市立中学校の女子生徒（1年）が自殺した件について、その両親は、「いじめの可能性もあったのに、学校は自殺の原因を十分調べなかった」として、11月16日、「文部科学省と同市を相手に損害賠償請求の訴え」を東京地裁に起こすことを決めたという（11月17日付け『朝日新聞』による）。

また、新潟県では、「教師からうそつき扱いされるなどのいじめを受け、不登校から転校を余儀なくされた」などを理由として、小学校6年の男子児童により、慰籍料など330万円を求める訴訟が新潟地裁新潟支部に起こされている（11月19日付け『毎日新聞』による）。

このように、程度の重いと思われる“いじめ”が発生してきた学校の場合には、訴訟をも視野に入れた“いじめ”の点検と指導・対応のあり方についての見直しをする等の備えが必要かと思われる。

（わかい・やいち = 上越教育大学教授・附属小学校長併任）

本紙は、<http://www.kyouiku-kaihatu.co.jp>でも掲載

●最新刊好評発売中！ ● 寺崎千秋【編】A5判220頁・定価2310円 教育開発研究所・刊

『管理職の力を高める No1 校長力を高める—101の心得と実践』

上越教育大学附属小学校【著】B5判215頁・定価2520円

『関係力～「子どもが生きる学力」への挑戦～』